

# あれこれがあれ



## ICHIKAWA LIBRARY

参考業務月報

### 2024年2月号

発行：市川市中央図書館 編集：レファレンスカウンター 〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 TEL. 047-320-3346

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
2月	645	406	427	57	10	1,545	722	42	145	250	94	467	3,265
累計	7,615	5,086	4,897	617	64	18,279	10,120	590	1,827	2,101	1,365	5,043	39,325

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

## 📄 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

190 キリスト教について調べたい。キリスト教が何か知らない、聖書とはどういう本なのかかわからない、というごく初学者向きの、読みやすい平易な書籍があれば知りたい。

キリスト教について比較的分かりやすい資料として、『図解これだけは知っておきたいキリスト教』（山我哲雄／編著 洋泉社 2008）、『キリスト教入門』（山我哲雄／著 岩波ジュニア新書 2014）、『そうか!なるほど!!キリスト教』（荒瀬牧彦／監修 松本敏之／監修 日本キリスト教団出版局 2016）等を紹介。

また、聖書のあらすじやポイントの分かる資料として『1冊でわかる聖書 66巻+旧約続編』（小友聡／著 木原桂二／著 日本キリスト教団出版局 2023）を紹介した。

190 18～19世紀の西欧（産業革命前後）における教会と市民の関わり方や、両者を結び付けた行事、市民（非聖職者）の子が聖職者の道に進みたいと考えた場合の手段等がわかる資料・文献を探している。学術書ではなく、聖職者が関わってくるような小説でも構わない。

『1冊でわかるキリスト教史』（土井健司／監修 日本キリスト教団出版局 2018）、『キリスト教会の社会史』（指昭博／編著 塚本栄美子／編著 彩流社 2017）などには、産業革命前後の教会・聖職者と市民との日常的な関わり等についての記載はなし。質問の内容については、カトリックとプロテスタント、宗派、地域などによっても違いが大きいと思われるが、中世の内容がある程度、当てはまるのではないかと考え、中世市民の生活における信仰や教会との関わりについて触れている『ドイツ文化史入門』（若尾祐司／編 井上茂子／編 昭和堂 2011）、『中世イングランドの日常生活』（トニ・マウント／著 龍和子／訳 原書房 2022）、『中世パリの生活史』（シモーヌ・ルー／著 吉田春美／訳 原書房 2004）等を紹介した。

教会行事については、上記『中世イングランドの日常生活』や『中世パリの生活史』の他、各教派の祝祭日について網羅している『キリスト教の歳時記』（八木谷涼子／著 講談社 2016）等を紹介。

また、『そうか!なるほど!!キリスト教』（荒瀬牧彦ほか／監修 日本キリスト教団出版局 2016）p.98～99「どうやったら牧師や司祭になれるの?」によると、カトリックとプロテスタント等によって違いはあるものの、基本的には神学校で学んだ後に協会から任職されるという記述があり、前出の『中世パリの生活史』p.146～でも、農民の子が高等教育を受け、司祭となったエピソードが記されている。

聖職者が登場する小説については、『キリスト教文化事典』（キリスト教文化事典編集委員会／編 丸善出版 2022）のp.133～278「第Ⅱ部 キリスト教と文化 3章 文学編」で、時代と国家ごとの文学作品について詳しく述べられている。18～19世紀に書かれた代表的なものとして『レ・ミゼラブル』（ユーゴー／作 岩波書店他）やチャールズ・ディケンズ、ジョージ・エリオットの作品を紹介した。

新聞 2024年1月2日の羽田空港で起こった海保機とJAL機の事故に関して英語の新聞記事を集めたい。

市川市立図書館で定期購読している英字新聞、Asahi Weekly(1/14)(中央)、The Japan Times(1/4,1/5)(中央・行徳)、The New York Times(1/5)(中央・行徳)の紙面で確認。3紙とも事故の記事が掲載されていたので紹介した。

## 他にもこんな質問ありました (クイック・レファレンスから)

- | 分類     | 質問   | ⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など |
|--------|--|----------------|
| 288.4  | 「舞妃蓮(マイヒレン)について書かれた資料を探している⇒皇居内の生物学研究所で育成されているとの過去の新聞記事を持参された。皇居周辺のガイドブック、植物関連の所蔵資料には記載なし。『上皇・上皇后さまがお慈しみの植物図鑑』(山下晋司/編集協力 水野克比古/写真 イースト・プレス 2020) p.51、『御所のお庭』(宮内庁/協力 扶桑社 2010) p.108~111 に記載があったため紹介した。      | →TOPICS        |
| 597.9  | サッシの頑固なカビ取りをしたいと思っているが何か参考になる資料はあるか⇒『ラクラクお掃除新津式汚れ落とし術』(新津春子/著 産業編集センター 2016) p.138 にサッシのカビ落としについての記述あり。また『落ちない汚れをラクに落とす掃除術』(茂木和哉/著 主婦と生活社 2017) p.114~115 にも写真の手順付きの説明があったため紹介した。                            |                |
| 491.3  | 日本語のアイウエオの発音の際の口や声帯の動きを図として描いているものはあるか。⇒8類の言語の書架には該当資料が見つからず、検索キーワードを「日本語」から「発声」や「声帯」に変更したところ 491(解剖学)の書架に幾つか発生にまつわる資料があることが判明。『美しい声で日本語を話す』(米山文明/著 平凡社 2007) p.76 に母音の発音の際の口や声帯の動きについての図があった。               |                |
| K458   | 小学生向けの、鉱物がたくさん載っている本はあるか。知らない石が載っているものが望ましい⇒『石の卵』(山田英春/文・写真 福音館書店 2014) に「ドラゴンの卵」「サンダーエッグ」といった形が珍しい石や、水晶ジオードの写真が掲載されていたため紹介。   |                |
| 918.68 | 新美南吉の作品でふきのとうが登場する短編を探している。⇒青空文庫のサイト内検索で「新見南吉」×「ふきのとう」で検索。いくつかのふきのとうの描写がある作品がヒットした中で、雀が落とした一銭銅貨をふきのとうが見つけてあげる『落とした一銭銅貨』という作品が利用者の求める作品であったため、『校定 新美南吉全集 第4巻』(新美南吉/著 大日本図書 1980) p.404~407 に同作品が収録されていることを紹介。 |                |

### TOPICS 舞妃蓮(マイヒレン)

舞妃蓮はハスの品種で、上皇ご夫妻のゆかりの花です。昭和35年、お二人がご結婚後、初めての外国訪問として米国を訪問された際、現地の日系人からハスの実を贈られました。そのハスを世界最古の花と呼ばれる大賀ハスの育成で有名な大賀一郎博士に託したところ開花し、当時皇太子でいらした上皇様にちなんで王子ハスと命名されました。その後、大賀博士の弟子であった阪本祐二が長い年月をかけて、博士から分けてもらった大賀ハスと王子ハスの交配を行い、ついに昭和39年に新しいハスを作出します。大輪の優雅な花を咲かせるこのハスを、坂本氏は舞妃蓮と名付けました。

参考資料『御所のお庭』(宮内庁/協力 扶桑社 2010)

読売新聞 令和5年8月21日号には【皇室点描】清らかな舞妃蓮 平和の象徴の見出しで記事があり、読売新聞オンラインでも閲覧することができます(<https://www.yomiuri.co.jp/koushitsu/20230821-OYT1T50088/>) (2024.5.10 確認)。舞妃蓮は日本だけでなく世界各国に根分けされていますが、宮内庁で咲く姿は宮内庁のHP(<https://www.kunaicho.go.jp/about/gokomu/shinzen/gaikoku/Indonesia8.html>) (2024.5.10 確認)でも鑑賞することが可能です。